

# 海上の杜技術士会 第18回 技術研修会

## 講 演 要 旨

令和3年11月6日

於：愛知県産業労働センター  
ウインクあいち 1302会議室

海上の杜技術士会



## 海上の杜技術士会 第18回 技術研修会 次第

(令和3年11月6日 於:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 13階 1302会議室)

- |              |            |   |
|--------------|------------|---|
| 13:00～       | 受付開始       |   |
| 13:30～ 14:00 | 開会のあいさつ    | 山里 剛史 会長 (S54卒)<br>奥村哲夫先生を偲んで・黙祷        |
| 14:00～ 14:50 | 基 調 講 演    |   |
|              | 演 題        | 斜面防災・土砂災害予測における<br>3次元地理情報システムの活用について   |
|              | 講 師        | 中村 吉男 先生                                |
|              | 所 属        | 愛知工業大学工学部土木工学科 教授                       |
| 14:50～ 15:00 | 休 憩        |   |
| 15:00～ 15:45 | 会 員 講 演 I  |   |
|              | 演 題        | 安全講和 建設関連の労災と関連法規<br>－ 知らなかったでは済まされない － |
|              | 講 師        | 鈴木 剛 会員(S63卒)                           |
|              | 所 属        | 株式会社恵南技術サービス                            |
| 15:45～ 16:30 | 会 員 講 演 II |   |
|              | 演 題        | 高潮・波浪防災対策と海浜利用<br>双方を両立した海岸整備           |
|              | 講 師        | 星野 正彦 会員(S58卒)                          |
|              | 所 属        | 若鈴コンサルタンツ株式会社                           |
| 16:30～ 16:40 | 閉会あいさつ     | 伊藤 久也 (S58卒)                            |

※会場の都合により受付開始までは、1204 会議室周辺での待機はご遠慮下さい。



土木学会継続教育プログラム  
認定番号：JSCE21-1280(2.4単位)

## 基調講演

# 斜面防災・土砂災害予測における 3次元地理情報システムの活用について

講演者 中村 吉男 先生

### (1) 講演要旨

気候変動に伴う異常豪雨に起因した土砂災害が各地で頻発している状況を鑑み、斜面防災・土砂災害予測のための事本情報として、近年開発研究が進んでいる3次元地理情報システムの活用方法に関する研究を紹介する。

### (2) 講師 Profile

氏 名: 中村 吉男 (なかむら よしお)

職 歴 等: 昭和 57 年 3 月 愛知工業大学工学部土木工学科 卒業  
昭和 57 年 4 月 愛知工業大学工学部土木工学科 研究生  
昭和 58 年 4 月 株式会社アジア産業開発 入社  
平成 5 年 4 月 株式会社アイコ 入社  
平成 23 年 4 月 博士(工学) 取得  
平成 28 年 4 月 愛知工業大学 教授  
現在に至る

委員等経歴: (公社)地盤工学会 地盤の浸透破壊のメカニズムと評価法に関する  
研究委員会委員  
(独)UR 都市再生機構 桃花台城山地区地盤沈下検討委員会委員  
沖縄県恩納村キャンプハンセン周辺障害防止対策事業  
安富祖ダム建設技術検討委員会委員  
(公社)地盤工学会 中部支部  
南海トラフ巨大地震中部地域地盤災害研究委員会(WG3)委員  
(公社)地盤工学会 東北支部 資源循環研究委員会  
石炭灰有効利活用小委員会委員  
防衛省 東富士地区ダム技術検討委員会委員 ほか

賞 罰: 平成 16 年 6 月 (公社)地盤工学会 中部支部 平成 16 年度  
優秀技術賞「深い掘削での高被圧下における盤膨れ防止対策」  
平成 23 年 3 月 (一社)ダム工学会 平成 22 年度ダム工学会論文賞  
「耐震を目的としたアスファルト遮水壁材料の開発」

## 会 員 講 演 I

# 安全講和 建設関連の労災と関連法規 — 知らなかったでは済まされない —

講演者 鈴木 剛 会員

### (1) 講演要旨

毎日、様々な事故や労働災害が発生している。事故や労働災害が発生したとき、重篤なものや悪質なものは書類送検、ブラック企業としての公表など、組織にも大きな影響をもたらす。事故・災害から労働者と組織を守るため、何が原因で事故・労災が発生したのか、または、どのような原因で書類送検されたのか、関連する法や規制から、組織は少なくとも何をしなければならないのか、身近な災害事例を紹介すると共に、どのような対策が必要かを解説する。

### (2) 講師 Profile

氏 名:鈴木 剛(すずき つよし)

職 歴 等:昭和 63 年 3 月 愛知工業大学 土木工学科 卒業

昭和 63 年 4 月 建設コンサルタント会社にて設計業務に従事

平成 15 年 8 月 個人事業を起業

平成 19 年 4 月 法人化～株式会社恵南技術サービス

建設、製造、産業廃棄物等事業者等に対する技術支援を実施、現在に至る

平成 21 年 4 月 BSI グループジャパン(英国規格協会)審査員

審査員として、マネジメントシステム認証審査に従事  
現在に至る

委員等経歴:日本技術士会中部支部中部建設部会 (～平成 21 年)

資 格:技術士(総合技術監理部門)

技術士(建設部門)

労働安全コンサルタント

ISO45001 労働安全衛生マネジメントシステム 主任審査員(IRCA)

ISO9001 品質マネジメントシステム 主任審査員(IRCA)

ISO14001 環境マネジメントシステム 主任審査員(IRCA)

## 会員講演Ⅱ

# 高潮・波浪防災対策と海浜利用 双方を両立した海岸整備

講演者 星野 正彦 会員

### (1) 講演要旨

伊勢湾の海岸施設は、その大半が 62 年前の伊勢湾台風により壊滅的な被害を受けた被災直後の災害復旧施設(海岸堤防・護岸)である。

設計事例を紹介する知多半島の南知多海岸(内海山海地区)も、設計当時、供用開始後 50 年以上が経過しており、施設の老朽化が課題となっていた。また、この海岸施設は、部分的に護岸としての治水機能(高潮・波浪対策)が不足していることも課題とされており、「波返しの嵩上げ」や「消波ブロックの設置」が必要な状況であった。一方で、南知多海岸は観光施設(海浜利用)としての高い機能を有するとともに、施設周辺の主要産業が観光業(旅館・飲食店・海の家 等)であることから、高潮・波浪対策により観光資源を喪失させる海岸整備は、観光業者との合意形成が困難な状況であった。この様な背景から、当発表では「高潮・波浪対策と海浜利用双方を両立」させる特殊堤(フレア護岸)を提案・採用することにより海岸整備事業が可能となった設計事例を紹介する。

### (2) 講師 Profile

氏 名:星野 正彦(ほしの まさひこ)

職 歴 等:昭和 58 年 3 月 愛知工業大学 土木工学科 卒業  
昭和 58 年 4 月 玉野総合コンサルタント株式会社 入社  
平成 15 年 9 月 株式会社アイエスシー 入社  
平成 17 年 5 月 若鈴コンサルタンツ株式会社 入社  
平成 17 年 10 月 同社 事業第2部 部長  
平成 28 年 4 月 同社 執行役員 技術統括部長  
令和 2 年 4 月 同社 執行役員 事業本部 技術管理部長  
現在に至る

資 格:技術士(建設部門)  
APEC エンジニア  
防災マイスター